

## 第2回かのや未来デザイン会議

日時	令和4年12月21日(水) 13時30分から15時00分
場所	市役所7階 大会議室
出席者	<p>◆出席11人(敬称略、五十音順) 片野田拓洋、平山康弘(※代理出席)、上高原貴子、清藤修、隈崎和代、小林千鶴、白石秀逸、坪水徳郎、宮下昭廣、和田滋</p> <p>◆欠席4人(伊藤ふさ、志賀玲子、別府込初男、山之内眞由美)</p>

### ■主な質疑等

発言者	内容
	<p>【報告】前回の振り返り(第1回目の内容について) ※事務局から説明のうえ、委員と情報共有。質疑等無し。</p>
	<p>【協議】</p> <p>(1) <u>重点プロジェクト(案)について</u></p> <p>① <u>重点プロジェクトの構成について</u> ※質疑等無し。</p>
委員	○ 「幼稚園留学」は実現すれば面白い。受け入れる側(園)への市の支援等について考えがあるか。
事務局	⇒ 具体的な話が来てからになるが、必要な支援は検討していきたい。
委員	○ 移住のハードルは仕事、住居、学校でありケアする取組が必要。
委員	○ 受け入れる側の地域の意識を変えるような取組も必要。
委員	○ 宇検村では親子山村留学に取り組んでおり、家賃支援や生活支援もしている。参考になると思う。
事務局	⇒ 「家守」など、地域が空き家を管理、改修、貸出する取組も考えている。山村留学は高隈地区でも取り組もうと考えている。
委員	○ 移住者の課題は住まいである。住居確保に視点を置いた制度設計をしてほしい。
委員	○ 起業支援について、職場体験や商工会議所と連携した取組を行っているところもある。
委員	○ 「応縁人口」のリストがあるか。またどういった人たちがなるのか。
事務局	⇒ 具体的なリストはない。「かのやファン倶楽部」や「ふるさと会」の活用、若い世代の取込を考えている。
委員	○ 移住に興味を持った人で具体的に家を探すまでになっているのにあきらめてしまうケースがある。地域で「移住者を受け入れる」という気運、雰囲気が必要。
事務局	⇒ 「響く対応」として人とのつながりを大事にする取組に力を入れたい。

	<p><u>③みんなで育む「かのやっ子」プロジェクト</u></p>
委員	○ 病児保育体制の見直しは保育現場では一番大事である。共働きの家庭が多いため、安心して子どもを預けられ、働きやすくなる。
委員	○ 現在の寺子屋と子ども会の状況は。
事務局	⇒寺子屋は30カ所。まだまだ広げていきたい。子ども会は参加者が少なくなっている。難しいかもしれないが、鹿屋の子どもは100%加入を目指し、例えば復活した青年団と連携して屋久島キャンプを行うなどしている。地域の中で安心して子育てできるようにしたい。公民館と連携した英語教育にも取り組んでいる。
委員	○ 子ども食堂はどういった団体が行っているか。
委員	⇒市内に8カ所あり、NPO、地域、婦人会などが行っている、まだ増えそうである。
委員	○ 高校生へのライフデザインセミナーと条件付き給付型奨学金のイメージを教えてください。
事務局	⇒性教育のほか、出産適齢期などいつ頃子どもを設けるなどを考える機会を提供するものである。知識を持ってもらうことを目的とする。奨学金についてはまだ具体的ではなく検討段階である。
委員	○ 全国一律や市独自の支援が結構ある。次に考えるのは給食費の無償化だと思うが、何か考えがあるか。また医療費の窓口払の無償化についてはどうか。
事務局	⇒新たな経済支援の候補の1つであるが、具体的なことは決まっておらず、議論していきたい。窓口払の無償化については県と協議し検討していきたい。
委員	○ 財政との兼ね合いもあるかと思うが、最近は大割と大きな自治体も取り組み始めている。
委員	○ 公立高校でスクールバスを走らせてほしいという声がある。公教育を支える市で何か考えられないか。
事務局	⇒周辺市町と連携した取組を検討していきたい。我々も議論していく。それぞれの立場でも議論・検討していき、先生方、県教委、保護者と連携して取り組んでいきたい。
	<p><u>④未来につなぐ地域づくりプロジェクト</u></p>
委員	○ 伊集院の「武者行列」に参加した児童から「鎧を来てみんなで歩いた時間を忘れない（南日本新聞）」という感想があり非常に嬉しかった。鹿屋にもたくさんの地域行事があるが統一感がない。郷土愛として子どもの地域愛への挑戦も考えてほしい。
委員	○ 県内志向が強まっているため、地元を知る、地元で働くという視点も入れてほしい。
委員	○ 来ることだけでなく、出て行かないための対策も必要である。都会から来る人は免許を持っていない人も多い。車は重要である。（車の提供や免許取得への支援など）

委員	<p>○ 地域活動が上手くいっているところは核となる人がいる。引っ張っていく人(コーディネーター)を見つける、作ることを考えてほしい。</p>
委員 事務局	<p><u>⑤かのやしビックプライド・プロジェクト</u></p> <p>○ バラの記載がない。バラ園は県内では鹿屋以外は比較にならない。まちの誇りである。「バラのまち」を位置付けてほしい。</p> <p>⇒バラ園のリニューアルにも取り組んでおり、バラ園も含め誇りとなるものを市民と共有して育てていきたい。</p> <p>地元の元気度、ワクワク感などを地域の発展の基軸として、人口減少とともに大事な視点としてプロジェクトに位置付けている。再度しっかりと掘り起こして位置付けていきたい。</p> <p><u>(2) その他</u></p> <p>○ 外国人労働者は移住に切っても切れない。受皿として市民がどうすれば良いのか、しっかりと整えなければいけない。技能実習制度改革でも有識者会議が持ち上がっている。鹿屋市でも取組が含まれていけば良いと考える。</p>